

## 1月16日(木) 寄宿舎3 「部門を越えた舎生同士の関わりについて」

R6年度の新潟よつば学園寄宿舎には、もう教育部門、以下、もう部門から10人、ろう教育部門、以下、ろう部門から6人が入舎しています。生活場面での舎生の関わりを紹介します。

### 部門を越えた関わりの様子

#### ① 多目的室(共有スペース)や自室では

多目的室は男女、部門、学年にかかわらず、日常的に余暇時間を過ごす場所です。

休憩時間では、舎生同士が自発的に工夫して遊ぶ様子が見られます。例えば、人生ゲームをするときは、すごろく部分の文をろう部門の舎生が読んでもう部門の舎生に伝えたり、UNO は出すカードを声に出して読み、取るカードは箱に入れてあるところから一枚引くようにして、もう部門の舎生がスムーズに遊びに参加できるようにしたりしています。

#### ② 体育館では

気候の良い季節には、主に夕食後、体育館で遊ぶことがあります。音の出るボールや、大縄などを使って一緒に運動を楽しみました。

#### ③ 棟活動

各棟の活動として、今年も「よつばたけ菜園(畑)」で野菜を育て、一緒に収穫しました。また、外食や会食の機会を設け、会話を楽しみながら食事をしました。

#### ④ 行事「はじまりの会」「お楽しみ会」「ありがとうの会」

もう部門の舎生が折り紙で花を作り、みんなで色を塗りました。また、ろう部門の舎生がプログラムを書き、色を塗った花を貼りました。自然と役割分担をして取り組む様子が見られました。

#### ⑤ 日常の関わり

もう部門の舎生の中には、積極的に手話を覚えて、発表や会話の時に自分から使っている生徒もいます。入浴の順番を決める時は指で数字を示しながら話し合っています。ろう部門の舎生は、廊下で道を譲ったり、入口のドアを開けて手で押さえて待ったりする様子が見られます。

### 職員の工夫～情報保障や道具～

① 舎生同士で関わっているときは、距離をとって見守るようにし、意思の疎通が難しそうなどきに、職員が間に入るようにしています。情報保障の際は状況や様子、相手の気持ちの部分まで伝え合えるように配慮しています。また、一人一人の障害には配慮しながらも部門にこだわらず、一人の舎生として見るように努めています。

② 人生ゲームや UNO など、点字テープを貼ることができるものには、職員が点字テープを作成して貼ります。また、立体オセロやパズル、サッカーゲームなど、触って遊ぶことができる玩具などをそろえ、道具の面でも工夫しています。

③ 行事の内容は、時間や重さを競うゲームなど、全員が楽しめるように工夫しています。

### まとめに

新潟よつば学園の寄宿舎がスタートして3年。部門の違う舎生同士が同じ空間で生活することでお互いを知り、相手を思って自然に行動する様子が見られるようになりました。今後も、見守りと支援を継続し、部門を越えた舎生の生活を支えていきたいと思っています。